

### 理科授業づくり研修会 公開授業に学ぶ①

はじめに

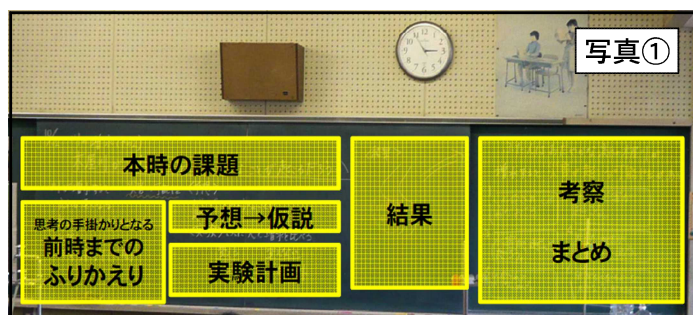
「理科授業づくり研修会」を昨年の10月～12月にかけて、県内7つの地域で開催しました。それぞれの会場において、たとえば問題解決学習による授業、観察・実験の重視、言語活動の充実など、今日的な課題に対応した公開授業が行われました。本研修会を通じて得られた授業づくりの実践的なポイントについて紹介します。



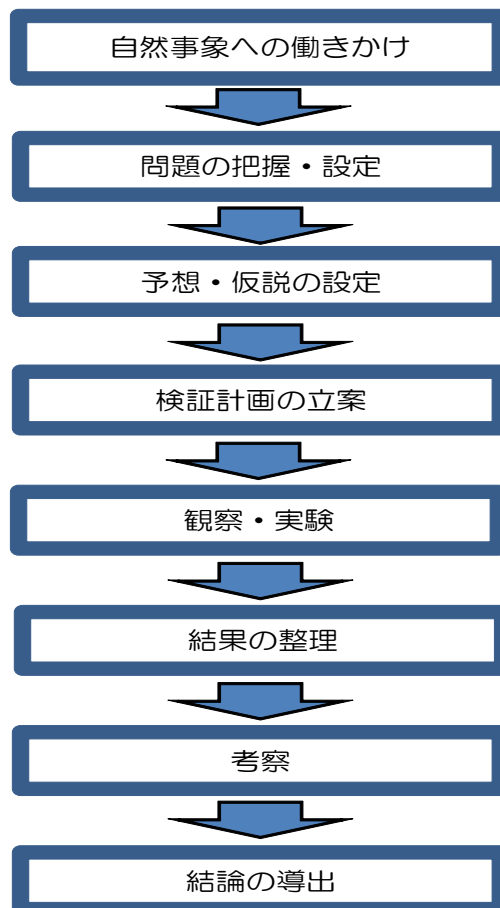
「構造的な板書」は「問題解決学習」につながる！

下の写真は、公開された授業の板書の写真です。

板書は児童にとって大切な学びの履歴です。そして、その時間に教師がどのような意図をもち、どのような学びを重視しながら授業を進めたかということがよく表れています。

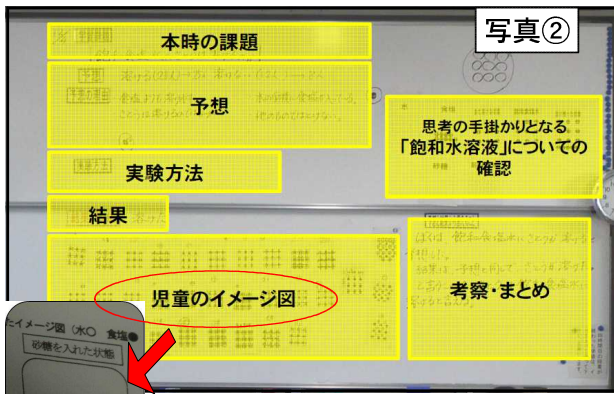


【問題解決の8つの過程】

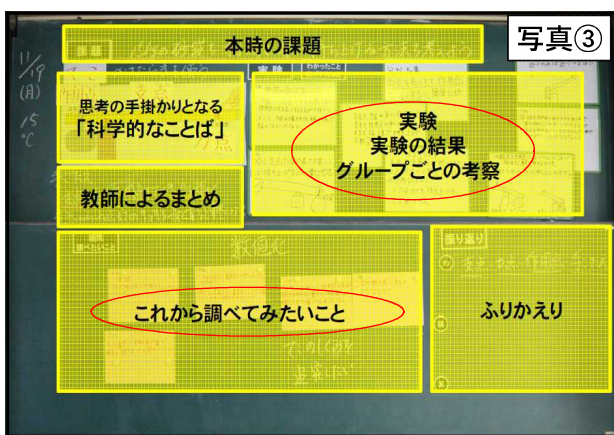


写真①の授業では、科学的な思考の道筋を踏まえながら問題解決学習の8つの過程を丁寧におさえ、学習課題の解決に迫ることを大切にしていました。

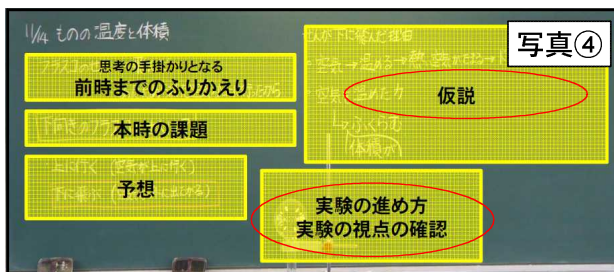




写真②の授業では、思考の場面において、イメージ図を使った活発な言語活動が行われました。見えない粒子レベルの現象について思考させることで、「目には見えなくても、ものは存在する」という物質観を育てることをねらいとした授業でした。



写真③の授業は単元の導入部において、「15kgの砂袋を指1本で楽に持ち上げる方法を考えよう!」といった自由試行の中から児童が学習課題を見つける授業でした。実験に関わる板書スペースが広く確保されています。次時からの問題解決につながる学習課題の検討もしっかりと行われていました。



写真④の授業では、児童が予想を立て、仮説を設定する時間が保障されました。仮説をもとに実験を行い、その結果について検証を行うという明確な目的意識を児童一人ひとりがもっていました。

そのほか、いずれの板書にもうかがえる配慮として、児童の科学的な思考の手掛かりやきっかけとなる情報が黒板に提示され、児童の主体的な問題解決が促されているということなどが挙げられます。

児童が「問題解決」の過程をイメージできるような板書を工夫し、理科の授業の中で継続的に提示し続けることが大切です。



おわりに  
7会場の授業づくり研修会では、いずれも問題解決の過程を大切にした授業が行われました。板書においても問題解決の過程が明確におさえられているということがよくわかります。こうした授業を継続することにより、児童の科学的な見方や考え方が一層深まっています。  
今回は、4つの板書を示しましたが、参考にいただき、理科の授業をより充実させていきましょう。